

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:2020年3月

事業所名:ハッピーテラス山田東第2

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		事務室を極力最小限として指導訓練室のスペース確保に努めています。	個別療育と保護者見学室はマジックミラーを入れて、子供達が集中して療育を受けられるよう配慮しています。
	2	職員の配置数は適切である	○		利用者10名に対して3人以上の職員を配置しています。	特性の強い児童が来所する場合は想定して加配の人員を置いています。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		室内は段差無く全てフラットにしています。	施設出入口は手動扉であるが、通常よりもゆっくり扉が閉まるように設定し挟まれ防止に努めています。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々の支援記録に児童ごとの個別支援計画の評価を実施しています。	支援記録作成時職員同士で日々振り返りを実施しています。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		年に1回を目途に保護者様に対するアンケートを実施しています。	アンケートの回収率をあげるため、内容の工夫や提出方法の工夫などしていき、事業所運営にかかる忌憚なき意見を聞いていき業務改善を実施していきます。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		2020年3月に公開します。	年に1回以上の保護者様の声を聞いて情報公開していきます。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○	実施事例はありません。	今後は保護者様や子供たちの支援を更に質の高いものをするために第三者の評価を検討していきます。
適切な 支援の 提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		本部でのトレーニング研修や外部研修への参加及び資格取得を行い質の向上に努めています。	今後も外部・内部研修を実施して参加をしていきます。
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		ご利用前にアセスメントを行い保護者より情報共有を頂いています。またモニタリングを半年に1回以上実施し、ニーズや学校での様子をお聞きしています。	今後も子ども達の支援に役立てるよう課題の共有を行っていきます。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		標準化されたアセスメントツールを用いて保護者様からヒアリングした内容をデータベース化しています。	アセスメントツールの使用と同時に、日ごろから子ども1人1人の変化に気づけるように支援をしていきます。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		立案は当日個別療育を担当する職員が行い考案内容を全員で共有しています。	1人の意見だけではなく、職員全員の意見が聞きながら引続きよりよい療育を提供していきます。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		週間テーマを決め実施しているが、日々来所する児童にあわせて考案の内容に変化をつけています。	週間テーマにてトレーニングを実施していますが、繰り返しを重ねたりイベントを実施したりと工夫をしています。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		個別療育を主としているため、日々課題をきめ細やかに設定し見学している保護者へフィードバックしている。	今後も子供の課題に対して工夫を重ねて支援していきます。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		当事業所においては個別療育を主軸に置いますが、集団活動を主軸とする施設を徒歩30秒圏内に構えているため併用を頂きながら支援にあたっています。個別に配慮が必要な場合は職員を配置し支援しています。	引続き子どもの特性に配慮していくとともに、保護者からのニーズをお聞きしながら必要な提案をしていきます。
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		その日のトレーニング内容を職員間で事前に情報共有しています。	今後も子ども達の支援のために職員間で情報共有を行っていきます。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援記録記載の際に、職員が気付いた点や気になった点を振り返り共有しています。また公休等で休暇をとったスタッフについては翌営業日に記録の確認と申し送りにて共有しています。	情報共有を行い、個別支援計画に則した支援が行えているかを常に意識します。また、日ごろの子ども達の状況に応じて必要があれば保護者様に対して個別支援計画の見直し提案を行っていきます。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		個別支援計画の目標を確認しながら支援日誌を作成しています。	上記記載の通りですが、個別支援計画に則した支援が行えているかを常に意識します。また、日ごろの子ども達の状況に応じて必要があれば保護者様に対して個別支援計画の見直し提案を行っていきます。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		定期的にモニタリングを実施しています。また必要に応じて保護者に来所して頂き相談の機会を設けることもあります。	個別支援計画に則した支援が行えているかを常に意識します。また、日ごろの子ども達の状況に応じて必要があれば保護者様に対して個別支援計画の見直し提案を行っていきます。
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせる支援を行っている	○		作業活動や創作的活動等、ガイドラインに即した支援を行っています。	引続きガイドラインに即した事業運営を行っていきます。	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参加している	○		状況を踏まえて、その場にふさわしい事業所の代表が参加をしています。	引続きサービス担当者会議開催の場合には参加をしていきます。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		保護者様から同意を頂き学校への情報共有を行い、必要があれば学校へ訪問しています。	引続き子どもの支援を行う上で学校との情報共有をします。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在医療的ケアが必要な児童の利用はありません。	医療的なケアが必要な場合には、事業所で万全な体制が敷いていけるかを引続き確認して受け入れを検討していきます。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○			保護者の同意を得た上で保育所や教育センター、子ども発達支援センターとの情報共有を行っています。	引続き関係機関との情報共有を行います。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在は該当がありません。	卒業後の進路が円滑に移行できるように情報提供を行っています。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			地域にある子ども発達支援センターと連携しています。	研修などは積極的な参加ができていないので、今後は研修会実施の案内が来た際は参加をしていきます。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○		現在積極的な交流が持ていません。	今後は必要に応じて児童クラブや児童館との交流機会を設けていきます。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			地域の事業所連絡会への参加をしています。	今後も時間を作って参加していきます。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			療育終了後約10分間の保護者とのフィードバック時間を設け、子ども達の状況や課題についてお伝えしています。また定期的に保護者面談を実施し情報共有を行っています。	引続き保護者様と綿密に情報共有をして支援をしていきます。
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○			日々の個別療育終了後保護者との情報共有の場を設けており、その中で事業所からご助言できることがあれば適宜実施しております。	日ごろの情報共有のみならず、保護者様の悩みを解決できるよう具体的な支援は何なのかを職員間で協議し、実施していきます。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に保護者様への説明を実施しています。	引続き丁寧に説明をしていきます。
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			担当職員または児童発達支援管理責任者を中心に事業所内での情報共有し必要な支援を実施しています。	今後、事業所内での対応が難しい場合は子ども発達支援センターや教育センター等へ協力を頂く等、必要な支援体制を整えていきます。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		開所してまだ事例がございません。	引続き必要な情報共有・連携を行えるようにしていきます。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○			苦情が発生した際には速やかに事業所内での事実確認と情報共有を行い対応している。また社内のCSR委員会へ事故・苦情・トラブルについては報告を実施会社間で共有しています。	苦情等発生した際には迅速に対応していきます。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			その日行う療育内容の取組内容を配布し、保護者へお渡ししています。また振返りの際にその用紙を元に意見交換をしています。	引続き保護者様に対して情報発信をしていきます。
	35	個人情報に十分注意している	○			職員は契約時に個人情報保護についての誓約書を提出しています。	今度も事業所内で個人情報保護についての研修や勉強会を実施していきます。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			視覚優位、聴覚優位などの特性を理解した上で情報伝達しています。	保護者に対して長時間による面談が難しい方は、電話連絡やお手紙等での配慮を実施していきます。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			営業時間内においては近隣住人の方が通りがかりで訪ねて来られるよう開かれた運営を意識しています。また実際に見学に来られ契約された事例もございます。	引続き継続して地域交流の機会をつくっていきます。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○			特に緊急時の対応については職員へマニュアル配布していると同時に、半年に一度避難の訓練を実施しています。その際療育中に重なった場合も備えて保護者へその旨同意を頂き実施をしています。	相談室や教室入口に設置して誰でも閲覧できる状態としています。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			年に2回社内で災害時に備えての避難訓練を実施しています。	引続き災害に備えて避難訓練を実施していきます。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			集団指導や社内研修にて虐待防止のチェックシートを作成しています。	事業所内の虐待防止は当然のこととして、来所する子供達をしっかりと見て他で虐待の疑いがないかをチェックしていきます。
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		○		身体拘束の事例はありません。	身体拘束の前に改善できることはないか、職員間や保護者様、学校等と一緒に協議連携して対応していきます。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		現時点で昼食提供やおやつ提供などは行っていません。保護者よりお聞きしたアレルギーについては職員で共有しているが、医師の指示書に基づく対応は行っていません。	保護者が医師の指示書をお持ちの場合は、同意を得て控を事業所に保管、すべての職員で共有できるようにしていきます。
	43	ヒヤリハット事例を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット報告書を作成して職員全員が目を通すようにしています。	引続き大きな事故を未然に防ぐようにヒヤリハットの作成をしていきます。